

病虫害発生予察特殊報 第 6 号

害虫名：プラタナスグンバイ
学名：*Corythucha ciliate* (Say)
発生植物：プラタナス

1. 発生確認経過

平成 20 月 9 月に、岡谷市で街路樹として植栽されているプラタナスに、海外からの侵入害虫である、プラタナスグンバイが発生しているとの情報が寄せられた。本虫を捕獲し、農林水産省名古屋植物防疫所に同定を依頼したところ、プラタナスグンバイであることが確認された。また、当所の調査で長野市内のプラタナスでも同種のグンバイの発生を確認した。

本種は北米原産で、近年、ヨーロッパ、韓国などに分布を拡大しており、日本では平成 13 年に愛知県名古屋市で初確認された後、昨年までに、福島県、埼玉県、東京都、神奈川県、岐阜県、静岡県、三重県、京都府、大阪府、広島県、愛媛県、福岡県で発生が確認されている。

国内では、現在までにプラタナス、イタリアポプラに被害報告があるが、海外の報告では、クルミ科やクワ科の樹木にも寄生するとされており、県内のクルミ栽培やクワ栽培、イチジク栽培などで被害が発生する恐れがある。

2. 形態

成虫の体長は約 3.5～3.7mm で、軍配に似た形態をしている。体色は半透明であるが、表面にある多数の網目状斑により乳白色に見える。前翅の中央に明瞭な黒褐色紋を 1 対有する。体周縁及び背面に多数の棘状の突起がある。

終齢幼虫は黄褐色で、頭部全体、前胸背の一部、翅芽の基部及び腹部中央は暗色を呈する。頭部の背面、体側部及び腹部背面中央に太く鋭い棘状の突起を有する。



図 1 プラタナスグンバイ成虫



図 2 プラタナスグンバイ幼虫

3. 生態と被害

名古屋市における調査によると、成虫のピークは7月上旬、8月上旬、9月中旬の3回が認められ、年3世代を経過すると推定されている。9月上旬から11月にかけてプラタナス樹皮下に移動し成虫態で越冬し、翌年は4月中旬から5月にかけて越冬場所を離れると考えられている。

寄主植物は、プラタナス、イタリアポプラの他に、クルミ科、ブナ科、クワ科、マンサク科、スズカケノキ科、トウダイグサ科、カエデ科、モクセイ科への寄生の報告がある。

成虫、幼虫ともに葉裏に寄生し、吸汁により葉表に白いかすり状の脱色斑点が現れ、寄生が多い場合には葉が白化～黄白化する。また、葉裏は黒い粘液状の排泄物により汚れる。被害が著しい場合は樹全体が白化し、美観が著しく損なわれる。



図3 プラタナス街路樹被害状況



図4 葉の被害

4. 防除対策

- (1) 表1に示す農薬を使用する。
- (2) 農薬の散布に当たっては農薬の飛散に十分注意する。街路樹の場合は、周辺住民などに被害が発生しないよう、十分な対策を講じて使用する。

表1 プラタナスグンバイに対して使用可能な農薬（平成20年10月8日現在）

作物名	適用病害虫	農薬名	希釈倍数・ 使用量	使用時期	使用 回数	使用方法
果樹（苗木）	グンバイムシ	ダイシストン粒剤	2～10g/1本	—	—	床土混和
花木（苗木）		TD粒剤	2～10g/1本	—	—	床土混和
樹木類	グンバイムシ類	スミチオン乳剤	1000倍	—	6回以内	散布

長野県病害虫防除所
担当：原 孝章（所長）、川合康充（担当）
TEL：026-248-6471（直通）
FAX：026-248-1069
E-mail：bojo@pref.nagano.jp